

人生ハンド仏句

第27号

H. 16. 6. 1

(毎月1日発行)

イスラム「について

(2)

住職 谷川寛俊

礼拝は毎日五回、夜明け・正午
過ぎ・日没前・日没後及び夜に行
いその祈りは、アラーの神を讃え
るだけである。これが宗教生活の
根本と成っている。(我々日本人
と比べ信仰の度合いはその比では
ないかも知れない)信徒は誰でも
何処にいてもそこが、清浄でさえ
あれば礼拝を行えるが、必ずメッ
カ(マホメットの生地)のカバ神殿の
方向に向かって行わなければならない。
特に金曜日(安息日)の正午
の礼拝は全身を清め、晴れ着を付

けて所在のモスクに集まって集団
礼拝を行うのが本義に成っている。
又断食と言って、九月に一ヶ月間、
日の出から日没まで飲食を断って
身を慎み、アラーの大慈に包まれ
る行もある。

アラーの神に命を捧げた者は、
最後の審判の日には必ず天国に迎
えられるとされている。だから自
爆テロというものが起こるのであ
る。アラーの前では、身分や階級
の差も民族や国境の区別もなく、
まったく平等の「教友」として結
合されるべきであるとするのが、
この教えである。信者数は世界中
に三億ないし四億と言われている。
しかし、この教えは、人道的な理
想を唱えるだけで、真に宗教本来
の使命である、人間の幸福をつか
む方法を説いていない。又神にし

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
[http://www.geocities.jp/
sinjiyoujityovama108/](http://www.geocities.jp/sinjiyoujityovama108/)

ても実に非科学的な観念的なもの
で、キリスト教と同じように天国
説を述べるなど低級である。又、
布教の為には流血をも辞さない戦
争を聖戦と称していることなど生
命の尊厳を無視した実に低級な宗
教と言わざるを得ない。
慈悲と道理により無血革命を推進
する我が日蓮大聖人の教えの偉大
さと比較すればこの事が、はっき
りするのである。



生まれかわり 死にかわり
永遠の過去のいのちを受けついで
いま自分の番を生きている
それがあなたのいのちです
それが私のいのちです